悔野集

癸下

土岐文庫
文庫17
W46
9

文庫 17
W46
$9

寄天恋
寄日恋
寄春月恋
寄月恋
寄月待恋
寄月別恋
寄月見恋
寄月変恋
寄月恋恋
寄月絶恋
寄三日月恋
寄星恋
寄七夕恋
寄織女恋
寄雲恋
寄雲見恋
寄霞恋
寄煙恋
寄霧恋
寄嵐恋
寄風恋
寄風待恋
恋寄雨
寄雨初恋
寄雨待恋
寄雨忍恋
寄雨増恋
寄春雨恋
寄五月雨恋
寄時雨恋
寄露恋
寄露忍恋
寄露別恋
寄露切恋
寄稲妻恋
寄雷恋
寄霜恋
寄氷恋
寄霰恋
寄雪恋
寄雪恨恋
寄春風恋
寄春恋
寄春夜恋
寄夏恋
寄端午恋
寄秋風恋
寄秋恋
寄暮秋恋
寄冬恋
寄歳暮恋
寄形見恋
寄晝恋
寄暮恋

昭和六十年二月一日
土岐善麿氏寄贈

0101851949 36

寄夜恋　寄山恋　寄葦恋　寄嶺恋　寄山辺恋
寄谷恋　寄杣恋　寄岩恋　寄巖恋　寄森恋
寄里恋　寄井恋　寄田恋　寄秋田恋　寄井堰恋
寄澤恋　寄懸樋恋　寄野恋　寄秋野恋　寄原恋
寄温泉恋　寄蘭恋　寄名所恋　寄隠真名所恋　寄川恋
寄川忍恋　寄川絶恋　寄川切恋　寄淀恋　寄橋恋
寄桟恋　寄水恋　寄水泡恋　寄瀬恋　寄瀧恋
寄淵恋　寄海憑恋　寄海辺恋　寄海路恋　寄浪恋
寄浪忍恋　寄島恋　寄渚恋　寄崎恋　寄泊恋
寄涙恨恋　寄磯恋　寄濱恋　寄潮恋　寄鹽屋恋
寄舟恋　寄浦恋　寄湊恋　寄樋恋　寄汐恋

寄湖恋　寄江恋　寄池恋　寄沼恋　寄沼忍恋
寄堤恋　寄岸恋　寄筏恋　寄棹恋　寄網代恋
寄濱畫恋　寄罘恋　寄網恋　寄網恋　寄縄恋
寄杭恋　寄柵恋　寄篝恋　寄碇恋　寄沙恋
寄石恋　寄木恋　寄樹恋　寄花恋　寄花忍恋
寄花変恋　寄花忘恋　寄花思恋　寄花切恋　寄梅恋
寄柳恋　寄花橘恋　寄山橘恋　寄楓恋　寄楠恋
寄楸恋　寄桂恋　寄菓恋　寄松恋　寄杉恋
寄竹恋　寄篠恋　寄紅葉恋　寄紅葉初恋　寄落葉恋
寄撫恋　寄椎恋　寄杣木恋　寄朽木恋　寄真木恋
寄鹽木恋　寄埋木恋　寄草恋　寄初草恋　寄下草恋

寄夏草恋　寄秋草恋　寄冬草恋　寄忍草恋
寄野草恋　寄思草恋　寄月草恋　寄草花恋
寄山振恋　寄藤恋　寄若菜恋　寄蓮恋
寄苅恋　寄百合恋　寄紫陽花恋　寄卯花恋
寄燕子花恋　寄萍恋　寄菖蒲恋　寄芦恋
寄藻恋　寄神馬藻恋　寄濱木綿恋　寄海松恋
寄荻恋　寄葛恋　寄夢恋　寄菅恋
寄苔恋　寄樫子恋　寄日蔭恋　寄五味子恋
寄葵蓼恋　寄瓜恋　寄未摘花恋　寄菱恋
寄薄恋　寄萩恋　寄筆恋　寄蓼恋
寄残菊恋　寄女郎花恋　寄檀恋　寄萩恋
寄川萱恋　寄浅茅恋　寄菊恋
寄田恋

寄秋田恋　寄艾恋　寄貝恋　寄鳥恋　寄千鳥恋
寄鴨恋　寄水鳥恋　寄鴛鴦恋　寄偽恋　寄雁恋
寄帰雁恋　寄鶴恋　寄鷺恋　寄山鳥恋　寄雉子恋
寄雛恋　寄水鶏恋　寄鴫恋　寄郭公恋　寄郭公待恋
寄鷺恋　寄烏恋　寄鶏恋　寄鷸恋　寄鷹恋
寄鶯恋　寄巣恋　寄出恋　寄虫忍恋　寄秋虫恋
寄夏虫恋　寄螢恋　寄蛍恋　寄蟬恋　寄烟恋
寄蚕恋　寄松虫恋　寄蜻蛉恋　寄我柄恋　寄蛛恋
寄蛙恋　寄鯛恋　寄鯉恋　寄獣恋　寄馬恋
寄春駒恋　寄牛恋　寄鮒射恋　寄鹿恋　寄猪恋
寄鼈鰒恋　寄虎恋　寄狩恋　寄狩場恋　寄屋恋

寄垣恋　寄門恋　寄庇恋　寄簪恋
寄簾恋　寄庭恋　寄炭恋　寄炭竈恋
寄薪恋　寄火恋　寄蚊遣火恋　寄野火恋
寄夢恋　寄命恋　寄心恋　寄情恋
寄髪恋　寄身恋　寄形見恋　寄涙恋
寄元結恋　寄櫛恋
寄方違恋　寄裳恋　寄夏衣恋　寄帯恋
寄袴恋　寄袖恋　寄枕恋　寄枕忍恋
寄綻恋　寄錦恋　寄色恋　寄糸恋
寄糸契恋　寄布恋　寄緒環恋　寄絡恋
寄機恋　寄紐恋　寄糸忍恋　寄玉緒恋
寄玉離恋　寄玉忍恋　寄錯恋　寄玉恋
寄玉筥恋　寄髪恋

寄鏡恋　寄琴恋　寄笛恋　寄扇恋
寄剣恋　寄刀恋　寄書恋　寄弓恋
寄物語名恋　寄催馬樂恋　寄繪恋　寄玉章恋　寄源氏物語恋
寄道恋　寄名所恋　寄旅恋　寄占恋
寄故郷恋　寄市恋　寄樵夫恋　寄焼物恋
寄海士恋　寄小兒恋　寄禁中恋　寄盜恋　寄驛恋
寄筌簀恋　寄笠恋　寄車恋　寄人恋
寄酒恋　寄木綿恋　寄幣恋　寄新嘗會恋　寄斧恋
寄世恋　寄述懐恋　寄無常恋　寄秤恋　寄塵恋
寄注連恋　寄社恋

怜野集巻之九

戀之部下

寄天戀

古　大空は戀しき人のかたみかは物思ふごとにながめらるらん　人真

新　[illegible]　元暦[illegible]

同　[illegible]　女御

同　[illegible]　後大寺左

代　[illegible]　実方

同　[illegible]　実光

同　[illegible]　[illegible]

男　[illegible]　[illegible]

新　大空[illegible]　[illegible]

寄日戀

古　[illegible]　[illegible]

寄春日戀

拾　[illegible]　[illegible]

寄月戀

詞　[illegible]　[illegible]

早稲田大学図書

寄月見恋

寄月尋恋

寄月待恋

寄月別恋

寄月変恋

寄月忘恋

寄月祝恋

寄三日月恋

寄星恋

金 三日月のおぼろけならぬ恋しさにわれてぞ出る雲の上より　兼実

後拾 恋しくは天の川いまはれ星のかげすがたを　村上院

同 かぞふれば空なる星も知るものをなにゆゑ流れきし数にとらせば　基綱

六 いつまでのまくらの板目あらねども雲のほしたえゆる君

同 君にのみあひまくらの夕されば空にたちもねるかな　不知読人

同 我恋は空なる星の数なれや人にしられでよをのみぞふる

同 日くれば山のはに出る夕づつのほのかにぞ見し君　

後 棚機に逢ふ夜はまれの天の川かはらぬ波にはやく渡らし　兼三

同 恋ひてわれ(?)と思ふ夕暮は雲ぞたつ(?)ばかりにかはらし　読人不知

同 思ひ来し(?)すまひとは家ぞなほ棚機つめしく人のゆゑする

拾 待ちねたる(?)ゆきしき棚機とこそまれになる(?)かな

同 わすれじと日に君にすら(?)けふぞ棚機ならぬ家ぞ恋しき　津軽伎

後拾 雲なるを契し中は棚機をうらやむ斗なかなかに　くに任

同 棚機をまどりとの家ぞ恋しく君と共にねぬる　増基

寄織女恋

寄雲恋

同 逢ふ事はまれなるほどにへだつとも心かよはずまどはるゝかな　後冷泉院

詞 棚機のあさひく糸の乱れてもたえむとぞ思ふ契りしものを　顕綱

続 ことゝはに恋ふらるれども天河あふせは雲のよそにこそきけ　雅光

代金 恋しさは日はあるかないはれども家をはなれし人の数かな　匡之

金 棚機は又こん秋もたのむらん逢ふことしらぬ身をいかにせん　大弐母

万 天の河のかはきしに立雲のたちもそはねて妹恋ひぬる　不知作者

同 今朝ぞ山の雲の立ちゐてもまさきのかづら君にしたへば　同

同 君がきる三笠の山にゐる雲の立てばつがるゝ恋もするかな　同

後 歎きわびてねるよりもふとかへるさへおなじことにて　女五のみこ

拾 いづくとてたづねか来つる白雲のかゝらぬ山もあらじとぞ思ふ　不知読人

後拾 いつとなく心空なるわが恋や富士の高嶺にかゝる白雲　相模

同 夏ごとにますく白雲の山のはにかゝるやいまにわたるらん　元真

金 恋ひわびて絶えぬ思ひの煙もや空しき空の雲となるらん　忠教

千 思ひのとおもくるの浮雲の星のあひに逢ふべかりける　宗家

寄雲見恋

野　逢ことのもすきものうれもたぶかぜにあはぬの袖のうらかな　惟明親王
初　宮ぢのかぜにはらはれうれしかるべきもののあれゆくとしにぬるかな　古今集
六　春山にかすみたなびくをかぶかぜにうすくなびくるかすみかな　大江千里
強　春たちてはるのかぜにとけぬるはかすみとなりてたちにけるかな　紀貫之
内　ゆきまにとけそめにけるはるかぜにはなのうらにはかすみたちけり　紀貫之
野　ひさかたのあまのかぐやまとかすみたちにけりはるかぜにけり　紀貫之
六　あまのかぐやまにかすみたちにけりはるかぜにけりあまのかぐやま　紀貫之
国　とふのこちんといひて金槐のうらにはかすみたちにけりはるかぜにけり　中御門前内大臣
代　たちのかすみたちにけりはるかぜにけりとはるかぜにけりはるかぜにけり　仁和四宝
国　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　紀季
国　春かぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　第五
国　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　家隆
国　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　延喜御製

寄霞恋

古　人にしられずにこしかすみかな　惟明親王
六　たちのぼりきのふはこしかすみかな　古今集
代　春霞ぬしにしられずたちにけりたれかはるかぜにけりはるかぜにけり　三条院
古　すまの海の塩焼きかすみたちにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　藤原公任
国　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　藤原為家
国　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　藤原為氏
国　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　藤原為氏
国　浦かぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　藤原為氏
国　春かぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　長綱
金　いつとなく春かぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　宗尊
詞　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　祝俊
国　いつとなくはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　宗方
千　春かぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　出雲
野　はるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけりはるかぜにけり　為之

新 風ふけば室の八島の夕けぶり心の空に立にけるかな　惟成

同 かゞの○の煙に絶ず立のぼる[illegible]　家隆

勅 夕烟[illegible]我君に[illegible]命ともがな　公[illegible]

同 富士の○の空まで[illegible]烟せよ　前太政

同 東路の[illegible]の煙[illegible]　信実

同 人しれず思ひの浦に焼塩の[illegible]　家隆

六 [illegible]山[illegible]するかな　不知読人

勅 かゞの○に烟絶ずと[illegible]　九条右

代 [illegible]の海の[illegible]　摂政

同 富士の○の立そふ[illegible]　讃岐

同 身に[illegible]　衣笠内

同 [illegible]　基良

同 [illegible]むせぶころかな　忠俊

寄霧恋

万 あすか川かは淀さらず立霧の思ひすぐべき恋にあらなくに　赤人

古 秋霧のはるゝ時なき心にはたちゐの空もおもほえなくに　躬恒

新 歎くらん心を空に見てしかな立朝霧に身をやかへまし　徽子女王

六 河霧の井手に君ます物ならば[illegible]　不知読人

同 [illegible]秋霧の[illegible]君と[illegible]　同

同 [illegible]の川霧[illegible]恋渡るかな　同

同 [illegible]秋霧の[illegible]　同

同 [illegible]秋霧の[illegible]　同

寄嵐恋

後 身に寒くあらぬ物からわびしきは人の心のあらしなりけり　読人不知

六 とふ人もしはしはあらしの風寒く[illegible]　古今

寄風恋

万 いきの緒に我思ふ人目おほみこそ吹風にして[illegible]　同

[illegible]

同 [illegible]

同 母がとふせば[illegible]

同 いかに風吹日[illegible]あふ夜のかへし時なるらん　同

寄風待恋

寄雨待恋

寄雨忍恋

寄雨初恋

寄月恋

寄月雨恋

寄露恋

代 人のとはぬを怨ふるあづまの月ふかき時ならでは人も恨てき　ふか読人
後 まち立て家方たち行なるあづまの月人しれの花と散なら　同
ふ 山もとと秋のこゝろぞ月のすむあづまの月はまふぞ恨る　同
同 逢ものゝこゝろ乱れぬ月のあづまはねもの思ひする　小町
代 君面のさえふかつるごと寒き時く人ふかしれぬ秋ふ　小町
拾 さ月きえあづまはまれぬあやめ草ふひ絶ふ稀これあるれ　冬嗣
後 拾 おちてこふ涙とぞこそ月面は拾ふ秋は名ふ社名を　冬嗣
金 月面の見れ物のこゝ涙あくれ名ぞとふ名ぬ　ふ漢人
野 あるこゝ涙ぞまぐ恋ぞ恨とせまれ意のこゝぞ　後朱女
ふ さみぶれよ乱をあるこゝ家ふれで人を恨ふぬれぬ日ぞ　美濃
古 家秋ふまぐ乱月面の涙ぬるゝ君ぐ人ふ秋やきぬ　読人ふ
後 秋君ふまれ果ぬ迷ぐ神君月月面ふのこゝぬ秋ぬ　同
千 いつこと袖ふ月面のこゝぐふ乱れ名のこゝぬれるぐ　定西
野 涙ふこゝ月面は秋ふ秋こゝていこゝふまつとこゝ恨　後朱女

同 ふの八重ふ秋ふ秋ふとふれぬ家ふ月面とふる涙ふれ　西行
拾 年ふれぬ家ふやとれふの山乃月面ふん　清輔
代 人こふるふんを君ふとぬきを恨ていぬこゝふる月面なるふん　ふ漢人
同 涙ふこゝ人秋ふこのたふあふぐふ恨ふ月面ふこゝふ　後鳥羽院
同 よそふふる涙の面ふ涙ふれふこゝ月面ふこゝふれ　色国
ふ 秋ふ田のふふふふふる白露の名ねぬく我ふ乱ふゆるふ　ふ読人
同 蝉秋ふ恋ふる露の風吹ふ涙ふとぬ色ふ　山口女王
後 後ふふる我ふ秋ふ露を同じくふ君ぬ涙ふの菊ふ涙ふれ　津守奥
同 夕暮ふまつふふふふふ白露のふくるふふふふふふ涙ふ　加茂美
同 涙川ふぬす秋ぬ秋ふ君ふ秋ふ秋ふ秋ふ秋ふ秋ふ露ふ　読人ふ
拾 ふふふふ秋日ふふふふふる白露を家ふとふふすふふふれ　同
同 秋の秋ふ菊家ふふを秋ふ家ふふふふふふふふふふ　同
同 露ぬふふふふふふふふふ秋ふふふふふふふふふふ　同
同 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ　同

寄露忍恋

寄露不恋

寄露切恋

寄稲雷恋

寄雷恋

寄君恋

古 逢ことは雲ゐはるかに鳴神の音にきゝつゝ恋わたるかな　貫之
同 天の原ふみとゞろかし鳴神も思ふ中をばさくる物かは　よみ人しらず
遺 千早振神もわかぬ我中は雲井遥にあらてゆくらし　同
拾 君代のことを思ひ見ゆ神さへしらぬ人の心に　人麿の家
六 わぎもこの心をしれる神もなし思ふ事をもそれといはまし　不知読人
同 天の原なる神のみにしらすらん人の身をも知らむと祈れ　同
同 あかめてたのむべし世の神とこそ人の心をはかるなりけれ　同
万 たえずしもこぞの上に嘆く我の名ふ我は恋をすらん　同
古 君がきくなる今の我のおもてにもいまだ恋しきことに隠れん　同
拾 ことのはよ君にあひそめし秋もあるらん　ちのみ子
新 ぬばたまのよるはなる君の法によせ世の神代をよせんや　茶山法
六 朝まだき行の草にかく我の名をのちにはれん恋渡るかな　読人不知
代 君代上に朝日さすめり今ひとたびはかなくも君こそ恋しき　法皇
拾 わすれくるまにおもはぬ君にそよりたつ秋の夜に　能宣

寄氷恋

寄霰恋

寄雪恋

遺拾 逢ことのとゞこほるまでいひ中方に冬とて数ける　内侍
同 わすれて音の山川の下にするみる思ふ　範兼
拾 ちゞの人のまことのまゝの露水とかね袖に流て見ゆ　赤染
勅 冬の夜の氷にとぢる我袖のかなしさすとゆる君かな　道補
代 山川のなまの氷の露の下にむすぼるらん　御製
同 下水のこほれる川のながれの我とこそ　義忠
同 されさや思ひあるかなき川の水ながるゝ田の打とけん　隆方
勅 まさに冬の氷に我とぞ我をしのびて君や何する　當摂政
古 君がおもひ音とすかる袖やかはしきけれ　雅経
同 わが宿のあられふる我の思ひはいかに　美子
同 何ともあられにかさなる我の袖にも思ひしぼりて　読人不知
同 なれくし降る雪の下にえこそ折てはなくされ　同
同 君とゆふべまで降る雪の身に積るかな　忠岑
　　よみ人しらず

後 さまえて見ん難きわか恋ハ拘ふ人の心なり　藤基
同 身よつめば岩とぞなる初雪のつもるうきは後にいはまし　右近
同 白雪のふりもえて社とけかゝる我なかくる後はきえぬらむ　読人不知
拾 我思ふ程ぞふかき白雪の下に消なん程にかるらん　同
同 降かとぞいつもきゆる我恋もうらもなくいはおくる哉　元輔
後拾 奥山のまき木は見えぬ遠きの峰の雪のいはとくべしと見ぬは君なれ　輔親
同 ゆきまれ流れ見ゆるかなほどふるにまどろまぬ泡雪　為信
六 大空にふる白雪はたゞにふるだにもふらねども我とする哉　よ美人汲
同 白山にふる白雪の消えやらず年にそへたる我恋ぞ　同
同 見ぬ人ハ何とかあらん白雪の消えて物思ふ事ぞかなしき　同
代 初雪の消えて消えぬ世の中にかゝる思ひの絶ゆるものから　為家

寄雪恨恋

六 ふたゝび降る白雪の下消えに恋せねとや人は浅まし　不知読人

寄春風恋

新 春風の吹くにも増る涙かな我身のうへに乱れつゝく　讃岐

寄春恋

同 くるさかの乱しく法もある柳の糸乱つゝ人ぞ恋しき　後朱雀院

寄春夜恋

新 わすれぬくつれなかる契にしかならへてねの春の夜　讃岐

寄夏恋

代 あふごとく拘ひし夏も数に見えし夏の夜のくらしかなくらん　不知読人

寄端午恋

拾 いかにせん忘れね沢のあやめ草引きつくとね社するれ　同

寄秋風恋

六 五月雨の空に知らぬ日はあやめ草袖にかけてもそれぞ知らぬ　美作

寄秋恋

古 秋風にみだれうへし吹くに人の心は見えにたり　友則
同 妹とせだにもかゝりし人の我をかるたちる名に社名もれ　よ美人汲
後 君思ふ心もさきに秋の日にいかにれまさると見かはらなん　兼茂
拾 年月のうつらん方に恋かえず秋はならひ人はこゆまだ　いせ
後拾 絶人のうれり岩も時うらず草木に秋の色ぞ見えける　道平母
新 いかにいはば秋きりの見えもしむ風のいかなる見えなく　読人不知
同 身にしみてちるときにならる狗をかえる秋をだにあれに恋ひしくなく　右大臣室
六 我恋に大江の山の秋風の吹きいで見の数ぞしる　不知読人
代 君こふる涙も秋にうつろひて袖にかはらぬ色ぞ見えける　基之
同 ながむれば見にかはらぬ秋の月袖のうへにも秋を知らん　斎宮女御

寄暮秋恋

代 あづさ山笑波の中道ほとしらて我身に秋のくると知まし 為忠

同 それのみか我身の袖にわくれてもみぢも定にとこえきく 上漢人は

同 物思ふ袖の涙すら紅葉にも時雨は秋の深きなりけん 同

寄冬恋

後 ことのはも時雨れにかれゆくぞ露はあらぬをわらぬ秋のは 同

新 ゆきかくわすれ秋もの蓬生にて人の心もうさにしぐるる 季俊

寄葉茎恋

同 時雨ふる冬は木葉のかなしさ物思ふ人の袖はぬれ行く ふ誌讀人

月 くてさえ年に暮ねとおもふにも人のつれなさ数へそひぬと 因幡

同 今をさへ思ひしられぬ泪だに我身世の末の初音なきとや 大進

寄旅見恋

千 しられねや思ひいふにわかれぬまの旅見と聞しはぐれの空 忠臣

寄晝恋

物 空と程日も来てまてもの晝中にしもえ忍びかねず 匡房

寄夕恋

代 思ひ積えにまつれし夕暮のとも猶物にならぬならん 道保の家

同 夕ぐれを人のつらさに数へぬれまつれしにこそおもひわかせて いはさかまぬ

寄夜恋

拾 秋ふも逢ことのしもの夜のよるは猶せすいく夜にきえん 讀人ふ知

六 くづるるのさやにうきとをぬぎとるる人はあはれ夜の 同

寄山恋

古 やぶ多き筑波嶺にゆくとも人も恋られん 同

後 恋のしるしのきまにするがなる山すれぞかずのみのやまのくなかねまし 同

同 数すらぬ身はちのもにわくるどもおもくの月日のしたるらん 同

拾 我恋のいるえにゆる物すらば数のかぎといえかれすまし 天暦御製

同 世の人はおもはぬ物もかの山はまるにあるは思ひかなら ても

金 恋は浅き思ひ入さの山のもにかかる月日のたもりねるられ 顕季

詞 菊恋もえら比れの山の奥まれや思ひいれどまし逢人にもは 定文

新 浪にふらへしぐらき思ひれど思ひいるにさけはらも何うき 上漢人は

新 年ふへてゆるふ富士の山もわれぬ思ひは我ぞ増る 同

六 いまでこいそもすれる身の果にて思ひしかく誰も岩まし 同

同 我恋のえらの山にかりしてん数ある身にたえ恋ありし 同

同 志ゆりしてゆきまし物ぞ会津の山入らまどふ人とも知らず 同

同 ま為にはのあさぐの山すれや恋しとぞる人のいはぬ 同

同 忘恋の森のことのはねれども恋の山はまださならはね 同

寄篠恋　　左漢人
寄岩恋　　蓮生
寄山恋　　通光
寄山恋　　家隆
寄山恋　　不知読人
寄山恋　　同
寄山恋　　慶之
寄山恋　　紀淑
寄山恋　　為家
寄山恋　　隆季
寄山恋　　不知読人
寄山恋　　伊文
寄山恋　　慶方
寄山恋　　後京極

六　あてもいそのの山を紙屋川　逢ことをとうてあはんとらんん
代　祈こそ山の山も苔むすら　神ぞとそとも恨ぬるれ
秋　恨あれど思ひの山の峰ふかし　高ぞ見ぬ
同　逢ことは山と積の岩ふかせる　ふもとの岩ぞ見ぬ
拾　山岳を寄ふ　ふるんの風家　なせひと　孤せぬ
六　ひとりとそもの山ふかう　岩ぞ　ふ知読人
同　逢ことの山岳ふかしとそ　ひとりとそ　ふ
代　岩浪を本家ぐれふかの　ひとりとそ　紀淑
同　奥山の岩ぬ岩浪分ぎ　ぬ　為家
後　君ふかの入ぬる山の岩の　ぬ　隆季
万　夫ぶ引いぐの松ふ立民の　ぬ　不知読人
新　紀さ名松ぬ松の松人の　ぬ　伊文
代　神のゆる山まの松ふ　ぬ　慶方
秋　吉野川ぬ　ぬ　後京極

寄篠恋　　牧氏
寄木恋　　宗快
寄里恋　　不知読人
寄井恋　　左漢人

同　ぬれぬ吉野川いと　ぬ　ぬ
山川の下ふかぬ　ぬ　ぬ
拾　君ぬる涙のぬる袖ぬ　ぬ　ぬ
後拾　いとぬ森のいりぬ　ぬ　ぬ
同　ぬをぬいぬの森ふ　ぬ　ぬ
六　人ぬれぬ　ぬ　ぬ
同　我君ふ　ぬ　ぬ
後　ぬ　ぬ　ぬ
代　ぬ　ぬ　ぬ
秋　ぬ　ぬ　ぬ
千　逢ことぬ　ぬ　ぬ
同　ぬ　ぬ　ぬ
万　濃ぬ山影ぬ　ぬ　ぬ
古　山の井ぬ濃ぬ　ぬ　ぬ

寄田恋

寄山田恋

後 影だにもみえずなりゆく山の井は浅きより又水やたえにし　きのめのと

同 言ふならば沈てはやまじいざさらば見ても見てん山の井の水　よみ人しらず

拾 我為に見えぬれのみならぬるなれど汲てぞゆかんさればこそ　貫之

勅 袖ぬるる山井のいそぎ人ならさぞ影せぬさへき　堀川

六 武蔵なる堀兼の井の底浅く思ふ心を何に見せまし　よみ人しらず

同 浅からん思ひをこそ思ひしか見ゆるやうにまたぬ山の井の水　興風

同 さなぐさぞ汲そめて見る浅くなれど袖のぬるる山井の水　読人不知

代 影さへて浅く見えたる思ひねれば又は結びし山井の水　同

古 秋風にあふ田の実こそ悲しけれ我が身むなしくなりぬと思へば　小町

同 あら小田をあらすきかへしかへしても人の心を見てこそやまめ　読人不知

後 打かへし君ぞ恋しきやまとなるふるの早稲田の思ひ出つつ　同

後拾 恨のみ薄刈田に[illegible]る稲ぐきのいまとも人のいはずもあらなん　能季

後 木の下の山田をかへしかへしても人ぞ恋しき　不知読人

勅 山陰につくる早田のさくれて[illegible]にいでぬ恋に身をやつさん　美作

寄秋田恋

同 苗代の水にまかすれど恋の淀せきあへぬかな　経盛

六 山陰に作る山田のおくれても[illegible]に出ぬ恋もするかな　清輔

同 山田すまもの稲をまつとて秋の時にみちぬると思ふ　忠岑

代 小山田のみちのまにまにこそかねとぞ恋しき　[illegible]

同 山田もる人とえすにひかえて時ぞともなく袖ぞかはかぬ　菅山陰

同 秋の田の穂にかきわけいまこのいやましに人にいはずや　小町

同 稲葉すさむこに出てるはれぐまの袖ごとは思ひの恨つる　俊成

男 秋の田の穂むけの風にかたよりに我は物思ふ人ぞ恋しき　作者不知

仝 名によふるのさき田の穂にいでずん我身にかよふ思ひ　抜気大

古 稲しても思ふ秋の田の穂むけのそよと人の契る　業平

同 秋の田のほにこそ人を恋ひざらめなどか心に忘れしもせん　よみ人しらず

後 あさりしてするたのみはてせ袖のみかはの身とぞなる　よみ人しらず

同 恨そ生る山田の穂の種は君まつとぞ刈人もなし　仝

同 秋の田のかりそめなりしことの葉に露の稲ばに[illegible]　家国

寄井堰恋

寄澤恋

寄懸樋恋

寄野恋

寄秋野恋

寄糸恋

寄温泉恋

寄関恋

寄名所恋

古 ハをたていばよの國にてまの里いかなそまに君をきゆらん　不知読人

代 あこれとて波こいひしいそ〇だんにするる實と袖これ　いゝ実ゝ上

同 夏苑にいかにこその関よりしとはふに恋しま人のとはどかこえこね　清真子内

同 越安き名にやすくる陸奥の名やふこその里とうらん　弘嚴殿蘭

同 とわくも程遠けれど我にちぎる実の名は忘れぬ　為経

同 荒にちりらねえすゑそおもひのいさめし人の東路　下野

拾 ちゝのにもこえまどふ東路のみちもとひし世の〇はまし　上実人

勅 東路や思ふ里にやすらひそあこその関は越ぞわづらふ　西行

続 わが人にみひとかは川をそゝがずはなほくしてこひせまし　為家

同 絶濃すると思しきなれと思ひに我をぞ待つのこゝのえぞうれし　読人不知

古 陸奥のわくまし川のおもふにも人忘れずのこゝろかさびしき　同

代 うそにかくりしらねこてゝ川こゝへぶ名にねるまま秋ぞ　寂蓮

同 白ものをたえの檜の節にたらしてぞ落る袖の波よ　定家

同 恋も程遠にもまたねとまけずらずに〇にのそ恋すゝ〇　兼子内

寄陸奥名所恋

同 家恋とまく人の塩の一日もおちずたちそわかれ　家隆

同 今ふまでも我身やかへる名取川人は数ぞ瀬をとまる　小宰相

同 我妹の枕のしたは名取川人の心のかへる瀬せり　前摂政

後 松山に波こすまで思ぞ中ゆかる里をはちのこゆる人のあらば　為家

金 陸奥はちのくしのぶにありながら恋にかるるあふはまろだく　長実

勅 思ふにもしのびてとかくおなじ人の心乃おくはらひとく　実字

寄川恋

万 みちのくの海に出づるたつま川なん日にこそ忘べき恋やま　人麿

古 流くる袖にひつゞる波川かきへすぐるときこゆ〈べ〉轉まん　業平

同 庭ひろき淵やぬかさひで山川の淺ませにこそあはぬ波こそ　不知読人

同 ねをぞ恋こそまされもせ川何にかゝれて初めな　読人不知

同 芳野川岩のなをまし大瀧は音にたえてぞぞとぞ恋ふ　躬恒

同 ...の川岩波高くりあのたえぞ人をとひ初てし　同

後 名取川やまてとどむる袖をもし瀬せにかるると何うへし　摂太政

同 淵となせにかつなるちゝの中ゆくるこそ社たまれたし　元方

後 はつるる白ひそかにかはの川波うるさくあるやまさうんをどむ時うく 長明
同 はつるるとはなくかぶかはのなかれくしかはとこそ 土佐人後
同 後人のとだつてよする後川おりてもて社ぬれ波ぬれ 仲
同 人をかはなりてを後河のうれきせかれ流れわくやと 同
同 かのせをみくまりて光る河のきのくれの渕そ我身こそ ふ和後人
接 秋なり波る後いとものくれ後川とそいへ後ろ 同
同 すぐれとと野ひるなりいと川の高てませかは後ろやと 同
同 後川のどるぶぶうれ流れうん出きくの新やとはと 同
同 後川波るみとまるれだせきそ魚なる社のぐみ 春之
同 後川を後うんくの山そのは美かあそふとのうとん 業字
後陰 渕やさかせかたあるる光る川波きを後くすをあをだ春後
同 後川同じみなりは後るる後川わふせたとやきこれ拍かそ光る い波ます
千 高すんことそたとうるる後川わふせたとやきこれ拍山 宗家
同 出て外景後のたとる後川ふる流れとうんとすれ光り

形 枕ぬとうくとるり川今は我身れちづむうり色 光明
動 後くこそ人とうる光景川のをゆるかはどそ 元良親王
同 後川をかる成社かせき魚て人のうれせかはやとてあん 芳実公
同 かうぶ河社のとうぶかつきゆりりとと拍ふこそ 後宋
同 はうまかり春まる後川いづれのかふかせあ春 元因
同 紅ごかいとの川のとを後ず高まんかれそれ 後人後
六 ぬれそれ後ごとそるの川いづ色ふれうる
同 高とかるりとれど高と川渕光せ成とえ社宣
同 君こと人をれひそかの國高ふ川の高ぞかとな 同
代 人をり思ぶの星かやきをそあくまりとこまくちうん 同
同 うとだかいさうもいさうかいさいるる我身うる春 鎌倉右大臣
同 我こそ称とのこれてあせ高後の川乃こ後ぐれ 光純
同 恨すくるり後やとこそとそうりぐくん春まる後 左大臣 芳古政
同 浮てこそ流れやうの後川高きせぐかわぐぶるかい 伊世
巫 巫部

寄川忍恋
寄川絶恋
寄川切恋
寄淀恋
寄橋恋

六 なゝたつ音なし川のおとなせそ下にこそみえね恋わたりつゝ　読人不知

新 ひとしれずさしわれ川のながれてもいかさなるせんかたなくに　同

六 いなせ川いはせとしれどひたすらにはえては流れてよふかしてすまず　同

万 松浦川七せの淀はよどむともわれはよどまず君をしまたむ　同

同 よどむとも思ひさだめしかくばかりまたるゝ人をゆかんとすらん　同

古 逢ことをながらの橋のながらへて恋わたるまに年ぞへにける　是則

後 東路のさののふな橋かけてのみ思ひわたるを知人のなき　ひとし

同 打渡し長き心は八橋のくもでに思ふことはたえせじ　読人しらず

同 くもでさへもろもちの橋にわたすこそ恋ふ人は中空にせめ　同

拾 埋木は中むしばむといへばくめぢの橋は心して行け　同

同 [illegible]外にかへせるふるまひもとだえしもとぞ見えにけるかな　道綱母

後拾 おもふことゆるさず[illegible]のまろきまどろむ[illegible]ならまし　相模

同 陸奥のをだえの橋やこれならんふみみふまずみ心まどはす　道雅

新 いかにせんくめぢの橋の中空に渡しもはてぬ身とやなりなん　実定

寄桟恋
寄水恋

六 津の国の難波のうらの一つ橋君をし思へばあからめもせず　読人不知

同 かづらきやまをすくめぢの継橋の心もしらずいざ帰りなん　同

代 恋路にはすがるの橋のわたりてもねる身のたぐひかな　兼光

同 人のとも見ぬ[illegible]にあひて[illegible]のかけはしのたえまに　伊勢

拾 津の国にいひふれて信濃なるきそぢの橋のかけしやなかで　輔光

古 足引の山下水のこがくれてたぎつ心をせきぞかねつる　読人不知

同 山高み下ゆく水のしたにのみ流れて恋ん恋はしぬとも　同

後 せきもあへず淵にぞまよふ涙川渡るせをしる人もなき　同

拾 淵はせにかはりて絶ゆる水もあればながれも知らずかさね恋ひつゝ　同

同 秋と[illegible]のかゝる君に[illegible]すまぬ水の絶ゆる[illegible]　同

同 為[illegible]て庭にせきいるゝ水のたえず思ふ心のうちはゆく　同

後拾 木隠れて岩間[illegible]流れて[illegible]ねかもとこそおもへ　叙覚

同 [illegible]知人[illegible]夜半の水[illegible]がくれて　長経

同 逢坂の関の[illegible]流る[illegible]人のうらみをえね　遍救

金うとまるゝ木下塔の后のいとこの人乃新をうらん　ふ結後人
同　よくとり沸きん成そうぞ引張ふまぶ川のあ　同　宋面
河　石川は流れこの世ん成だ生れうえをかくみてうぞき　駿昭
子　人ぞれぬ後の川乃あうとやいとでの山は後のあ
同　ぞひあまり人ふしまぞやうぞ出瀬川むすびねあふ秋えるて愛
野　人ぞれずぞふいえ見引のぶあれてうやうら年　やと　元陶
同　あれたのたうる化数とおれおかえず流まれ産よとまれぞ　天暦御製
同　後好るう新ぞふうえぞうぞまを歌見のあいえ家ひあくえ　乃弱世
同　ふあをまふ結ぞとふ化ん留ぞ花のれと新まで　漢人
同　山城の井まのあるまふ後と新せうあうせうあ　同
六　高野のふのありさうあるうま家とぞんわう　い世
同　ぞうとえ何をうきうふいそあうぞうえ人ぞうれん　後人ふ名
代　行あふ数うえ人と戦ぞく近えあ高ふ秋やぬれう年　兵実
同　遠ふいうえやふ田のあうあれふ一秋へいるうあうれと　大武

寄水泡恋

同　見引れたふのとあうとあふえ出ぞうぞんれてのみ　後白河院
同　遠ことえ底ふうぞの石井ぞく結ぶんをいけうとく産れ　い家苦
後　ぞひ川後ずすぐるうあれ池のううえ人ふあうぞ池やや　い世
拾　りあれあを新ぞうう流えを人れ出せれ流れうえ先　漢人後
物　産うづく行苦ふねねひふりあき津のきえねばようれ
代　ふ川遠せうふねあれ池の流えをとといけと新まん　侍従
同　家恋ふうぞうれ前れ産れうう数をうぞて　馬内侍
男　鴨川の後せうぞうえ後りあうん妹ふえ我ハうえうぞと　後人ふ名
後　ふ婚るんものううて我ふふうれきせぞうぞもする　同
拾　後川産のうぞと流ふそうえうませぞにうぞれうえれ　昭
ふ　ふ川のせふ後ぞくとふ出えず流ふうき人の新とうえうぞ　不知後人
同　うぞくてあうぞず流ふぞ川の人とうとうねせとうられん　同
自　涙とあうと後の川は産ふ川をいぞ白ふせふをぞうきねぞ後　光雲
代　ぞりる新とふうう後白後きせぞのうえせ一人より　弱国

寄瀬恋

寄滝恋

代　石そそぐ山川のくだけてはやくもとうん　龍倉右
同　波川もしばしばかくてかかるせぜおれて人しるとれば　源書文
古　激つせの中の淀に見てとどめ我恋の淵せをうれ　不知読人
後　白川の激せの白糸くるまはみるまでくるまでとまつといふる　太政
同　白川せ激のいとくるまかりられどおちふかくとせで拍波や　丹後
拾　岩波ね拍ぶかうん恋てでいでこるるうん恋れの激　とも美人後
新　恋絶て独ふせぬかれすぐらるる海や恋すの激　俊忠
同　せぬまみ岩かちるる激川のうれと東かわうんとでるて　野宮
野　恋かのこまとゆうみちる恋の激かるこて袖かるる　後人不知
六　見引のかちるこまつ岩波のくるてくるて人で恋てき　源右兼
　せぬとわずとまれて落る波れるそでるる滝秋ちう　牧政
代　ちうんを恋かときうね激つきの白のでい袖かず落うん　隆祐
同　岩そそぐ滝の白糸恋こうるいれて恋てまやかで　河雅
古　うれ恋のこりぐれる淵ちれや流まんれ知人のうき　後人不知

寄淵恋

後　ちくで称の峰ちう落るこれの川恋で様うて淵と来ぬる　陽成院
同　せきと返ぐまちうて波川波るて人せ知ちうれ　とも美人後
同　淵ぐうう人ちうて波川波のううで流ませと社ちる　同
後拾　分て拾て流きこうかと人ぬ　兼盛
六　ちうぬふる神と知うん渡川のとどめる淵のうれうちて　不知読人
同　ちうぐうの沖れ堰せかぐれて人のちうせ六ちて拍　同
同　さ流ちせで底ひちうねうこぼの流ま人れ流れうん　兼て
同　いせの淵れかる雪の底と恨われで流きん人れかかとて　同
代　ずれとる雪のかぐれの滝れのかれかぐうる焼うわざらん　聖武帝
同　分ちうう波ちいでかるるまう流ちう海うり波ぬれうる　いせ法師
後拾　ちちうる我分のうちれちて浦かれ焼うちうれ　左衛門
同　ありて流の涙れま袖れるれ独ぬるちの敷かとく　紀貫
続　とれくの敷のかかちう流ハ落けううちとる流ハ　読人不知
代　ちんぐうて雪のぐるとれすちとまぐうのうるかれ　惟規

寄海遥恋

寄海路恋

代 こひわびてなれものわたりのせにはなみのよるとてもよるらし　後京田院

同 もしほやくけぶりのうらみしらすかとこひしたへしる　六条右

新 みくまのの浦よりをちにこぐ舟のわれをばよそにへだてつるかな　いせ

同 ゆらのとを渡る舟人かぢをたえ行へもしらぬ恋のみちかな　好忠

万 わたのそこおきかりなげきかれとおもへどもこひしきものを　よみ人しらず

同 こぎかへる沖つしら波よるかたに我のりくしらず我こふらくを　同

同 とのぐもり雨ふる川のさゞれ浪まなくも君はおもほゆるかな　同

同 ちはやぶるさがの川せのしら浪やむ時もなく恋ひわたるかな　大伴郎女

後 我恋ははちらんと思へど田子の浦にたつしら浪の数ぞまされる　兼風

寄浪恋

同 君が袖は岩に立来の松山の波こゆべくもあらぬ身をいかに　土左

同 住の江の波にはあらねどよるとのみかよふ心を君にまかせる　貫之

同 潮せには白浪立さはぎ寄ひとつもこゝろはあらし　不知読人

拾 涙川水まさるらし心ならず名こそ流れてとはでもあらなん　しらずまも

金 人しれぬおもひありその浦風に波のよるこそいはまほしけれ　俊忠

寄浪忍恋

新 さとりの岸にたつ岩波のくだくる人ぞ恋しき　紫く

物 うらみわびほさぬ袖さへ浦よするかひもなみだにぬれつゝぞふる　大輔

六 打よする浦のみるめのかれてこそ思ひしられぬ恋のみちかな　津守

同 波の花やしてしれぬ風のおりさせて夜にいでゝん恋をまたなん　よみ人しらず

寄島恋

自 荒磯の岩にくだくる浪なれやつれなき人にかくる心は　堀川

代 岩ぞくる波まに見し人をたのみて恋ひわたるかな　読人不知

同 風ふけばおもはずかしこ打よする浪のまもなく恋ひわたるかな　延喜御製

同 同じくはこえてくやしき岩波のさのこす心をよせて頼まん　信実

同 山川のたぎつ心のうちに浪のりくしらぬ恋もするかな　俊成

万 いさやこせの岩まの浪の立かへりむせびて　誠学

後 浪のえは岸にむかへるわたしもり島と君をいそぐね日かすし　不知読人

新 わが恋は行ちまし津の国のとしわたりくる浮島のまつ　戒仙

代 塩がまの浦にうつる浮島のうきたる恋のみちなれや　山口女王

代 島かくれこぎくる舟の追風の立帰りつゝまつのまつ　惟規

寄浦恋

寄時恋

寄海恋

寄浮根恋

寄海藻恋

寄涙恋

寄潮恋

寄塩屋恋

寄舟恋

寄浦恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄江恋

寄池恋

寄沼恋

寄堤恋

寄岸恋

寄筏恋

寄棹恋

寄綱代恋

寄識尽恋

寄羅恋

寄網恋

寄縄恋

寄杭恋

寄柵恋

寄簗恋

寄礒恋

寄砂恋

寄石恋

寄木恋

雪樹恋

雪花恋

雪花恋

寄花恋

雪ふりてうめ人せいでさんあらばはるのはとこそ　有時

雪ぶりの梅の花をこそわかねれ春ふかしとはいつの春ぞ　友則

雪ぶりの梅の花をこそ梅ちりぬ人のこころを梅ちりぬ　漢人

寄花恋
寄思恋
寄花切恋
寄梅恋
寄鄰恋

同　見てもおかぬ風と吹わたす春のりんの花と咲えんなら　前宮白
同　花ゆえに咲ける枝へちらばかりわがこゝろ　業平
古　今はとて花ぞ咲ける我宿の花をだにとらえも思ひん　溪人法
野　白ゆうん霞のうちの梅花ひとりやとてきえるう那　え補
同　我袖の咲ける花をかのつく枝をひとりすぎふわつん　らしの
古　ひさかたの春なわさめつゝ花ぞ霞ぬらし世のをとちられん　ふ和後人
野　さいねへかをそへてうる梅花ちらうん後の風わびうき　ふ和
同　花ごとかん河むる花と枝よ光がなかぎりて祝ふれたる　大武之位
月　つゝゝ人の岩さへ梅花かちの岩八あつゝきこの月　宗因
万　隠すへむつぶの宿の川柳のひとりどゝろとれどあるね花ゝ　紹
同　あんちとかつあくらの柳と川すぎごうれた世ぜ　後人ふ和
　　まつてはちへあと川柳　せどうう
後　春柳ひとはむすぶ春のうゝ柳すぎふ花ものうまゝ　伊尹
拾　春ふれむ柳の糸とふかちむすぶれる我心ふれ　不存撰者

寄花橘恋
寄山橘恋
寄楓恋
寄楠恋
寄榊恋
寄杜恋
寄菓恋

同　いにしへふかとる世ふいはとん青柳のいと宮ゆきき人のこゝろを　同
野　春柳の糸れしるはしるこゝろ一すぢふゝとひとふれんば　藤原定家
同　青柳のいとはうぐかひくれ宮ひそめそん春をうらうば　後朱雀院
同　流こどう流とわうねる春柳八色ろてどといぐ新生春　女蔵生ま
古　春のあふゆる春柳子小宮てひふくふれどわうね春ふれ　ふ和後人
万　家ことふ八ふてとあとふ我春の新橋流ふたまびとゝ　同
同　世の糸流で春とる宮ふのふてもむれ流ねんとふひそ　同
古　我恋を思ひるゝて八宮ふのふてもちづあの美ふ世ね宮ゝ　友則
古　今さとふんえうへでよふ人といいふことだまわざむふれ流　紀貫之
同　和泉ふる春ふのぐれ春のくすれまのちえふうれて拾ひこえ宮　後人ふ和
万　流まよりこゆるふ宮れ後撰ふゝくふね君ふわうずゝて　同
野　君ふゝとあるふの浦乃後撰流流世てのふとゝ世ゝをるう新　ゆ
万　同ふゝえをまふ八ふれね月れ井の桂のれま妹流いふせ　湯原王
古　ちゝれ濁ふふうえさゝふひふる宮のなりとうふずゝ新て　ふ和後人

雪松系

古 秋せもの沢の一せを過ぎまし籠の鳥ましつぞ恋しき　　三渓後

同 稚くわまで雪ふり松と世ふるそ浦ふるそ恋ひ恋わびぬ　　同

後 雪の松をこどうとみしのハ花の紅葉をちらねこそ　　同

同 稚えわまで過るのうち雪のこもまつゆえ年をふる　　同

同 絶えすしの数分ぬせど年てもまつそ雪をそまし　　同

同 雪の松しまつといひて年ふてうもこそ恋ねとそ恋ま　　同

同 雪繁ふと松ものことハまつやどの久しうるべよ雪ふこそ　　同

拾 下紅葉するをど雪ど松の末ましの雪の松を紅そうるべ　　同

同 遠ことをまつふそ年ふ一ぬるふ雪ハ過しそふ世ねは世ふ　　同

千 はるれなんなんしてふ遠をていつとそうるあふれ松系　　雪庵

新 ふるまう敷しの山ふ松の雪ふ世繁ふ松をふるうれ　　遠倉右

同 年ふ世松雪代の結び松とふ松ねは松ふ人ふそしし　　経補

続 代ふとふふむすびれるる雪繁ふ世ふふてる雪代ふ松　　雅親

代 雪夜きうしふ里ふ雪代遠てふ松のまふまでバふ　　遠農右

雪松系

同 雪代の雪ふ年ふ結び松世ふ遠ふるふ　　中院右

同 雪ふせる海と海ふ松みふん代ひふつ遠ふ松の雪ふ　　伊平

同 武蔵の松とふふ末沢ふどそふれ雪ふ海ふ年ふ松後　　家宗

古 ふた瀬河の海ふ川のしふふ雪と雪松世ふ松後　　ふ美人

まふ雪松ふ年二ふある松　　せどうふ

後 雪ふのふふふふふふふふ松の数ふバ雪ふふふ雪　　同

後拾 松村といひて市ふあふふふふ雪ふ山ふ　　同

後 遠ふのふふふ遠ふふふる雪ふのふふふ数ふふ雪ふする雪　　陸西

同 かびふふふる雪ふる雪ふふふふふふふふふ雪ふふ　　ふ雪後人

拾 いふふふふ一時ふふ雪ふのふふふふふふふふふふふふ　　同

同 いふふふん松ふふふふふ雪ふふふふふふふふふふふ　　同

金 ふふひふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ　　ひ夏

代 ふる雪ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ　　後人ふ雪

雪ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ　　同

寄篠恋　大武

寄紅葉恋　家秋

後拾　もみぢ山なかき夜なを嵐にのこるかなしさ　千　大江千里

拾遺　ちはやぶる山の紅葉の錦をば人の手ぶりにかけるなりけり　読　紀友則

今はとてふるさとのやまにもみぢせば　千　藤原定家

散ぬる涙ぞ色と染なれば　拾　紀貫之

ちはやぶる神のいがきにしをれてぞ　金　紀友則

ちはやぶる神のいがきにしをれてぞ　月　藤原定家

時雨ぬる武蔵野の紅葉ぞ　古　人麿

人をとふ山の紅葉のあらばこそ　後　藤原定家

ふるさとにそめつといひしこと　拾　紀貫之

人ごとに木の葉ふりしく秋の山　月　藤原定家

みねのもみぢ葉の色のあらしの風　拾　紀貫之

時雨ぬる山のもみぢ葉のあらしの風　後拾　藤原定家

年をへてもぐねの根にしをれぬる人のなげくらん　代　藤原定家

ちはやぶるかみのいがきにしをれぬる人のなげくらん　同　右大臣

寄紅葉初恋　忠信

寄紅葉恋

寄物恋

寄椎恋

寄松木恋　拾　大井川なをきよ流れむかしをぞ　同　大江千里

松川のせゞの白波なれぬれば　代　藤原定家

松川のあをくゆたかにながれもて　千　藤原人麿

寄朽木恋　我身をいとはぬ世にしあらねば　拾　我身をいとはぬ世にしあらねば　太上天皇

寄真木恋　象潟の下葉まさる時雨ぬるゝ袖に笑ひぬ　拾　内大臣

寄埋木恋　こと浦の沖によせ来る年ぬれど　代　忠岑

浪千の袖のこれる埋木の　金　紀貫之

年ぬれど人とすさまぬ我身をば　千　紀友則

寄草恋　ちぐさいろのいそのゝ小草ぬれて　拾　藤原定家

ちとせとわたる松の名をいかにぞ　同　舞蓮

歌ずきといつかぬ名を川瀬ごの埋木　拾　藤原政

流るゝ水せゝ川の埋木ハ下の恋ぶかしをしらぬ　家　藤原定家

名をのるとしまれくにたゞるくまの　同　藤原人麿

流るゝ水の岩根の苔よ恋とする　同

万　たのしたさかりかの宮ヒさうくふのうおもそん　　法眼慶春
古　信濃の国の沼乃花ごろもうるる人てゝ多ゝ濡そん　　同
後　ふるとしの人ぬらふふとすきたる宮乃花ゆゝはあるね　　同
同　かぎすたうちとたちかゝ浮名ふたゝ形ゝまとうゝ　　慶春
形　今ゝとゝうくやいとまのまゝと宮さうゝ我のくゝ多ゝ濡うゝ年　　法眼
同　みるめこそ入ぬる波の宮うゝ秋さゝ沼の下ふ打れ形　　好忠
同　うらふくと恨しゝ人の袖ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　家持
同　足引の山のうぐ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　延喜帝
同　新うゝ世ゝの宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　ふわ法人
同　波宮ヒうる時ゝやうゝ人ゝの袖ふ宮乃ふ宮乃ふ　　同
初　君みずゝ行のうるゝのひゝふゝ逢ゝ行の宮乃ふ　　同
同　恋ゝまゝ人ふゝいゝゝ思宮ゝのゝふ宮乃ふ宮乃ふ　　通治
同　奥山の下ゝ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　忠義
同　人しれぬ恋乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　隆房

寄初草恋

宮乃ふ宮乃ふ

同　みふの宮の沼のふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　法眼
同　人しれず我ゝ乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　法眼
同　まゝれゝ世ゝまふくゝ世ゝ義ゝ乃ふ宮乃ふ　　同
同　年ゝ立て河ゝ乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　同
同　えつまきのゝ乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　同
代　君ゝふゝみゝゝ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　同
同　逢ゝのいゝゝ沼のゝふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　後鳥羽
同　かゝゝ我ゝゝ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　建保宮
形　袖ゝぬゝ乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　牡政
同　うゝ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　宮乃ふ
形　逢ゝの沼の乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　第二
初　ゝゝ沼の宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　読人しらず
同　世ゝ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　同
同　まゝれゝ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　隆信
　　恋ゝ乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ宮乃ふ　　良房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄石竹恋　　通昊
寄月草恋　　二条院讃岐
同　月草の衣をすらん紅の深き色をとはばいかゞすさ
　　同
　　同
　　同

寄紫陽花恋　六　藤原為忠

寄卯花恋　同　藤原為忠

寄蓮恋　同　藤原為忠

寄藤子恋　同　藤原為忠

寄菖蒲恋　同　藤原為忠

寄菖蒲恋　同　藤原為忠

寄蓮恋　同　藤原為忠

寄藤子恋　同　藤原為忠

寄菖蒲恋　同　藤原為忠

流　流くのみをくるしみてなげかれぬ　敦慶親王
同　かかるこころをとはばいかゞ小萩の露　屋風
金　いたぬまハかりとて萩の袖の露　梅政
千　うつり変の来事ゆゑ　ゆゑ
秋　難波ゆくみをつくしまで　いと
同　流れて京人のうきかゝる　帥俊
六　袖のなかいとれなくうるを分たるきかゝ　ふ和後人
同　萩の露ちらしきんとうたゞかゝ先をれかて　同
続　流よりする海ぐの萩のわうて人のうきかゝ　基俊
代　我恋と難波堀江の萩の露ちらぐれたのこ年をうるれ　蟲撰人
同　難波なるみをつくしてもかくすべき　九条右
同　うたかはる萩の袖のうれつゝいまよりふるゝ花をも　同
古　思ひ流かるゝわせぬ我袖のうぐの川かゝ植てうまりあを　流人ふ和
同　うきめくせそなるゝ浦うれぐらめゝ社雲ハとるゝ　同

同　いせの海の松をゆゝ松かうぐてゝ　同
流　あゝてゝうるゝのうぐ　苔
後拾　かかるの海をもとぐいせ流の海をもとの浦かゝ人をるゝ　いせ
金　うゝむたゝるゝ袖ぬ袖ぬ　わた
千　流ゝるゝいせの海を我うんさもぐるゝ　京國
秋　逢まぐてゝるゝぐさくぐうたまぐ波別ね波て雲人　さか美
同　白波と色さぐたらずまの浦てゝるゝいうんとぐ　ち漁人
万　袖のすかりせぐかゝいせゝれをちぐ　同
同　ゝれぐこかゝるゝのおうぐまんをてこゝるぐ　同
同　樽ちひまぐのぐゝるかのゝてて紅さをかゝいね君ゝ　同
同　わすゝりせぐのゝゝのおうぐまんを海かちかゝるゝを　同
同　海の名ゝるて浦のうぐまゝてゝいゝ海かちかゝりのを　同
古　おうぐめゝとゝねゝゝの海のゝゝふゝこゝれてのゝ色流ゝん　同
後　色さぐ海をゝうゝてゝ海のゝぐをいつゝ白ん　同

濃姫　小海士しほたれそでの涙ゆへ　人麿
金　濃まつやなど恋ぶ光ゆるし　忠岑
千　我恋し雲のうるはしかれつゝ　貫之
古　ちとせ池かゝるもれたる初かり　忠岑
同　いとせ川ながくもれたるそゝぐれて　我こそ
代　ませ川ながくもれたるそゝぐれて　人もそでな
男　ちぎるる波とかけるおもひ　同
同　樽ちりつゝ　ふれとそのそれ　後京極
　　をのとそのそれ　赤人
同　絶たそのまゝの海たまのうそ　後人ふる
同　みくま野の浦たまのうそ　人麿
拾　さゝなみ人のうそ　芭蕉
後拾　ちる紅葉するとまこがみくま野の浦の波ゆふ　西行法師
代　とゝやとゝんそ張ぬ　ちるとそとくま野の海たまゆ

寄神馬藻恋

寄海水綿恋

同　ちるとそ我とくま野の浜ゆふ　紀貫
古　くれぬたのとりとる稲ぬ　紀貫
拾　稲ぬ　ちるとそ我ぞ　ふる
同　ちるとそいそれの池たうきぬ　後人
後拾　我恋とます思ひ池のうきぬ　紀貫
同　いとるんぶちるぬ　小野
同　川みやあふの池たうきぬ　馬内侍
千　奥山の岩ゆ池のうきぬ　忠岑
代　恋とのみまずの池たうきぬ　後宗
男　詰人の岩ゆ池たうきぬ　後人ふる
同　樽ぞそのとそ川のとまの　同
　　とわまず川のづすぐ　同
拾　袁岩のゝぶみ　ふるまろ
物　二とゝ岩のみくま　ぶふ　ぬ　ぬ　ふ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　同
　　せどうう　歌弘

寄蓴菜恋

寄蓴菜恋

寄荒恋

代　我恋をみしぐれの白ま葉に行あふ袖ぞ濡れける　信海
同　山路の宗か葉に降てのみ葉とそなれぬ山の葉に　四宮左
同　山葉に二むすびかぞへしねる波にまぎれの袖ぞ　宗祇
同　ねぐらをよそ野ぐらにみるよ野のみくまぐ葉に[illegible]　仁和寺
同　波川我ゆ色とぶかしく葉のま葉に[illegible]荒よそふ[illegible]　土御門院
同　谷河のみなぐる葉に山葉にやまずと袖の袖ぐ比ろ　曽禰
男　三笠山のわ[illegible]ぬ[illegible]ようものとぞ[illegible]いまぐ[illegible]ど　[illegible]
旅　川ぐたすす波に[illegible]ま荒の[illegible]ぬれぞ[illegible]ぬ[illegible]すれ　同
野　山路の波に[illegible]荒らわ[illegible]そ袖ぬれぬとそ[illegible]ぐ[illegible]ん　宗之
物　三笠山のうら初ゆさ[illegible]荒ゆ[illegible]ぬ[illegible]ぬる[illegible]すれ　俊恵
人　さ月まの沼ゆ生る[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　ふ和法人
同　[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

寄日藤恋

寄五味子恋

寄苦恋

寄撫子恋

寄朱橋恋

寄蓑恋

寄葵恋

寄葉恋

寄瓜恋

寄笹恋

寄菊恋

寄三種草恋

寄薄恋

代　今こゝを我あふひとも小笠原人のぐすを日へうれて　和泉式部
同　秋うえし君が賞し家中に花のゝびをとをれかうんとも　道濃
後拾　ゆうさんねみそのれうとも知ようよひ晩とろ〻ぞ　義孝
代　山城のとゞれとうちの山ぶきとゝ知ぐ〻ぞ　ふか後人
拾　君とゝぐ義よ〻ねんぶ〻ぬ〻ぬ〻ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄田恋

寄秋田恋

寄文恋

寄貝恋

代 ねむれど不ねんを濃等つゝ為小ぬるんで美うるゝ　後人ふね
万 をゝ引ぬ山田作るまひでずゝかたぞ小をよりるとゝ孤　同
古 門つを田りるゝ人めの寄ゝ
同 人人今い秋田ぬかふれ小社田ひ古ゝへする　同
後拾 くゝとぞ小えゝいぶまのさゝゝ寄ゝ小ぶ方　寄世い
古 不世ゝちぶの系ぬさゝゝ寄ゝ分ゝ恋ゝん　古後人
同 袋ゝんんゝこそさゝゝ寄ゝ小ぶゝ小ゝ　同
同 ゝちゝをゝぶきのゝめのさゝゝ寄ゝぬるのゝゝ　同
同 わぶぬゝゝぶまゝゝぬさゝゝ寄ゝ小ぶ分ぶゝ　同
万 いせゝ鶯の鳴ゝゝなゝぶゝゝ鶯の見ぬゝゝ　同
同 ゝ国のわくゝぬ濃の見ぬゝゝ年ゝ　同
同 紅のえゝ濃ゝゝるゝゝ袋見れゝゝゝ　同
後 いせぬ海のちゝゝぬ濃ゝ恋ゝ今ぬゝゝ　紅恋
拾 わゝを海のゝゝと枕ゝ寄ゝ分ゝ　後人文

寄鳥恋

金 よゝの海ぬ浦ゝぶとゝゝれぬゝゝゝゝゝゝゝゝ　受付
新 鳴みゝゝゝゝゝの海ぬ拾ひのゝゝぬゝゝ　宗祇
六 ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後人
同 いせの海ゝ鶯のゝをゝゝ見ゝすれゝゝゝゝ　同
同 ゝをゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
同 ゝゝき心ぬゝゝゝ故のゝゝゝゝゝゝゝ　美濃
代 ゝゝゝれぬゝゝの浦ゝゝゝゝゝゝゝゝ　兼盛
同 名ゝゝ浦ぬ海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
同 紅ゝぬ岸ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　菊之女房
万 遠つ人ゝゝの池ゝ紅ゝぬゝゝゝゝゝ　後拾大寺
後 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ふ知読人
金 遠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　宗祇法師母
同 ゝゝ小紅我名ゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝ　為忠
千 波ゝゝき初ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　俊頼
後撰 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　清輔

寄千鳥恋

後 恋しかじかなどと思て寄ぐ伝宿れ猶小移ろう定めん　野宮
代 茅ぐれの裏法れ系にる名れ久れね拙いらひ　衣笠内
同 夕嵐ハも乱名れり　ちとこひ　章信△
同 村名れ立ぬ小れ名れ歌くいらうもて定ある人れ歌と　ロ和
同 せての世ぬ少その後れ伝のよ　五摩口宴
同 君を思ふんとなるよ　ものだらの名小ハ行れざる　山鳥所
同 ます幾名ぐ小せよ少名れ名れ中れ　小宰相
後 後名ひすかりらつ世とうれ人のわ　と後人名
拾 久てのくるその浦れ後名を和よ詠つ意ぬ　同
千 歌しかわらずるとの後名ぐ小せね恨とぐする　延家
新 風吹とよそ小ぬるれ名ぬひ　秀能
同 新れと小伝ぬ名ぬ後名名り　興風
代 いろかもん後ものの後名後名名ぬ　和泉
同 うらむ　後名ぬ　後名名伝方ぐ　忠岑

寄鴨恋

同 牧ぬ小ね家ぬ立う名れ後名名伝ぬ名小名れ　二条
万 名れ世のうりとりぬ名れ名ぬ名ぬ小独移ぬ小　紀皇女
同 よそ小名れ恋れ名ぬ名ぬ世小伝ぬ鴨ぬ　ふね後人
同 ぬ名ぬよ小ぬ名ぬ小ぬ小伝鴨れうきぬ名ぬ　同
同 萬のそ小ぬ名ぬて鴨ぬ名れ名ぬ名ぬ部　同
金 金ぬ名ぬ名ぬ名ぬ小ぬ名ぬ萬鴨れうきぬ名ぬ　同
同 ぬ名れそれ小ぬ名ぬ世ぬ後ぬのわ名ぬ名ぬ　拾遺
六 人ぬの名ぬ名ぬ名れ鴨ぬうきぬ移ぬ名ぬ名ぬ　後後
同 風ぬ名ぬよどとぬつぬ名ぬ名れうきぬ名ぬ名ぬ　後人ぬ
強 ぬ名ぬ名ぬ後ぬ後ぬ小ぬ名ぬ鴨ぬうきぬ移ぬ名ぬ　同
代 後川うきれぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ移ぬ名ぬ　万葉
後 ぬれぬ小伝ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ　い世
千 独ぬる我小れ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ　右大臣
新 新水ぬとぬ名ぬ名ぬ後ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ　万葉
元 元夫

寄水鳥恋

寄鴛鴦恋

寄鳥恋

寄厂恋

陸　ひぐらしのなかねにあきの蓮葉の浮葉ぶかれたる独り
円　ひぐらしのなかねにあきの蓮葉の浮葉ぶかれたる独り
円　ひぐらしのなかねにあきの蓮葉の浮葉ぶかれたる独り
後　いとゞかなしいとすゝきかれたるうきをみるあきとおもふらん
後　きれたる池の面に水鳥のいとゞあはれとおもふらん
円　うき沈み別せかさるゝ鳥の鳥とれどかはらぬとこそ
六　独のみうきの浮沈かはる鳥の鳥と張ずとこそおもふらん
円　君ゆゑと我身をもてゝ沈かはる鳥といふなれかはるらん
古　人とおもふかはるものとおもふらん
円　ちりぬれば花とはれ世中の人のこゝろも秋しうれば
円　萩ちる野をなさうれりこのいとゞとおもふる我分なれば
野　萩をなる鳥ぞかはれとなる秋かはるどうの人の者ぞれとせぬ
後　星とゝびとゝるめる人〻を井のきく〻我分とうら
六　三芳野のきれむの鳥とひくゝるかきみが方かぞよると鳴る
円　我方かはるとおもふ三芳野の枕むのうらといつるられん

後人ふか
頭頼
ふる風
いつよりの
よるの人家
円
源雅定
世うく
ち溪後
西園寺
南家女
後人ふか
家房

寄鳥恋

寄鶴恋

寄雲恋

円　ちるゝ方とは秋うゝる鳥のあまこゝとゝぶかとゆる君れ
代　遊ことをもなれよそかり鳥の鳥れ遠ざれどや秀れきこえぬ
後　君ゆゑ思ひをもなかはりいとれんのうるゝ鳥ぞし
円　おりはたる所四れ系ゝ鳴うゝのまれく何方し我こふうくた
後　湯れ系に鳥くゝ萬ゝの鳥ことく嫁ゝこれれ何ろゝ
後　萬ゝの沢鳥かせてこ鳥れゝれゝれれのをれうのこう
円　ちまゝくれをそかゝ芦をゝのをこうゝれたかみとうれん
六　遊ゝれうかちゝる萬ゝのすかゝく秀いきこえやする
古　我園の梅れゝつゝかゝ雲れ若かれ鳥れ若とするれ
後　雲れをゝかとびて鳴秀ゝとうれさうとゝ鳥きてつる
円　春ゝゝかま雲ゝ鳴ゝる雲ゝふるすゝのゝんそう
円　雲ゝ木ゝゝゝ鳥れ枝かれ鳥れふるすゝゝ鳥ひゝるな
円　雲ゝ鳥の鳥ゝ鳥れゝれゝ鳥のゝるとゝをゝれやゝする
子　雄雲の雲の鳥かゝ雲の子ゝみうとゝる若代とゝら年

後人ふか
鎌倉右
ふゝ後人
坂上郎女
大伴卿
古大丞
後人ふか
い世
ゝ業人
歌忠
冬雪
仁祐ム
りゝるム
盛成ア

寄山名恋

寄雑恋

寄雑恋

寄鶴恋

寄郭公恋

二条院讃岐

讃岐

同

業平

讃岐

業平朝臣

同

讃岐

右大臣

列樹

讃岐

伊尹

讃岐

同

馬内侍

寄子規恋　　後人よみ

寄鶯恋　　同

寄島恋　　同

寄鶏恋　　同

六　我やどの花ふきみだれ春風の秋すぎぬるかとおもふ　　後人よみ

拾　こねんとてまつらの松の秋の日にしかぬ事をうるれ　　同

六　ゆるぎの森に鶯すらん　　同

同　あ増る渡せ川せゝ立鶯のこゑもてはやすねたのこゑ　　同

子　たゝらとそさへはまつ山鳥うらやましくもあるかな　　安性△

六　夜ふけよのまもちぐらすのさゞめ　　後人よみ

同　鶏ぐすいてこゑ鳴て我せこが鶏の鳴られぬ夜をつ　　同

六　逢坂のゆふぎりにまぎれて人や来てきゝ鶏ぞ鳴らん　　同

同　あふさかのゆふつゝまかはらぬこゑ君がゆきてをきくとも　　閑境

子　忘ひの長ぐふこえでぬれぬれがわとでとまれ　　寿茂△

勅　よそ人のこゆふぎりにまぎれつゝ　　因子

同　きぬくふるたきうねぐこゑ　　土御門右

同　逢坂のゆふつゝまかはらぬ　　幸清△

同　鶏ぞなきうらぬ　　同

寄鶯恋

寄鶯恋

寄鶏恋

代　いふせんとなくこゑもたゝぬ　　右獨

同　かふうきものゝ長こゑ　　実家

勅　実のこゑ波こゆあづの島浦なれ　　家隆

実　我為ふきこゑくらし若鶯のこゑ　　

後拾　ふるがかとこゑ鶯と来ゆるら年ハふれを長とをれず　　後法演人

新　こゑ鶯のこゑ　　左大臣

代　こゑ鶯ハ　　寄歌△

同　我長ときこゑ　　

代　こゑ鶯ハ　　

同　ふるこゑ鶯のこゑ　　

勅　ふるこゑ鶯のこゑ　　

同　こゑ鶯ハ　　

古　鶯のこゑ　　

同　今しかと鶯ハ　　

同　あまれる鶯よすむ世ハ我こゑ　　

六　鶯ハ世ハ恨ハ　　直子

代　夕鶯ハ　　

寄虫恋
寄杖虫恋
寄炭虫恋
寄蛍恋

代 風をだにさそはぬ夕ぞ思ひこしたれさがるあの弱柳
同 さてぶのくるのいぶきは我ゆゑ
同 あるくとは我も我まん虫の分をうたぶ遊とは生ぶ
同 ちいかえ分をうつる炭虫のきえてと並ぶいひん 左溪後
拾 風をみ寄よりの虫ちらいいぞ相をうまんぞ嬉しる 同
另 ちかるぶの我家のぐよあまうたれきねけく 同
定 ぶうりこうるふいのうちえねる せどうう
古 炭虫を伺ふいろんかうら我とぶひより炭ぶ
後 あつ虫のちまくまどうちのぶぐらねぶと並ぶぐらん いは
同 炭虫の分ちこ拾て四あっぺ我とまのぐん(めり)る分ぐ 後人ふ
十 寄すをぐ分ゆる覚て嬉とる家分の外れ相ともうる 雅枝
古 久さんぐ覚ちり分ふとゆんぐ先ちのぐ人のうれ 友呂
後 ぶて先嬉んね相ん炭虫の分ち嬉れるぶひくうう ふ和後人
後拾 人の分と寄ちうんぶ炭虫のわちふとゆとみ寄ぶぐ 俊頼朝臣

寄蟹恋
寄螢恋
寄蟬恋
寄松虫恋
寄鳥恋
寄蛙恋

物 炭虫とあくる我とぶ炭ぶ相とうちとぶ寄ぶ 道家
同 裏虫ふあちね我分ぶ炭ぶ生ぶ相ぶ 長溪後
古 ゆゑ夫ふぶいん四炭虫ぶ分ぶ炭ぶ
另 ゆ ふ人とはうぐずくえよあ相とあ相ぶ相ぶ
同 先ちちの母ぶかうこの眉寄ちうぶ
同 たちちの母ぶかうこの眉寄ちうこ相ちうこ相ぶ
後 眉ぶくふこちうせまりをぶ相ぶ
物ち 眉ぶくふこちうふ先嬉のぶ小寄ぶ寄ぶ決 出房
ち ちの寄嬉んちうふ先嬉のぶ小分ぶ寄ぶ決 弘道
古 ちうみぶいちの森ふすむ嬉八四ぶ相ぶ波ぶん ふ和後人
代 今ちんといぶそぶれちうぶ相ぶ先ぶ寄ぶ
ち ぶあまちとうぐ我ちのぶ寄ぶ寄ぶ
代 久さんぐ人まちむの嬉ぶ(ふ)ぶ先ぶ分ぐ寄嬉ちうぶ 亀阿
代 秋ぶ我ふ相ちうちうぶ寄ぶ嬉ぶ寄ぶ相ぶ 隆祝
野 ゆ寄ふ食ちうぐうぐのわちぶ先ぶうぐずぶ先ぶ相ぶ 栗之

寄蛙恋

物 炭虫とあくる我とぶ炭ぶ相とうちとぶ寄ぶ 道家
同 裏虫ふあちね我分ぶ炭ぶ生ぶ相ぶ 長溪後
古 ゆゑ夫ふぶいん四炭虫ぶ分ぶ炭ぶ
另 ゆ ふ人とはうぐずくえよあ相とあ相ぶ相ぶ
同 先ちちの母ぶかうこの眉寄ちうぶ
同 たちちの母ぶかうこの眉寄ちうこ相ちうこ相ぶ
後 眉ぶくふこちうせまりをぶ相ぶ
物ち 眉ぶくふこちうふ先嬉のぶ小寄ぶ寄ぶ決 出房
ち ちの寄嬉んちうふ先嬉のぶ小分ぶ寄ぶ決 弘道
古 ちうみぶいちの森ふすむ嬉八四ぶ相ぶ波ぶん ふ和後人
代 今ちんといぶそぶれちうぶ相ぶ先ぶ寄ぶ
ち ぶあまちとうぐ我ちのぶ寄ぶ寄ぶ
代 久さんぐ人まちむの嬉ぶ(ふ)ぶ先ぶ分ぐ寄嬉ちうぶ 亀阿
代 秋ぶ我ふ相ちうちうぶ寄ぶ嬉ぶ寄ぶ相ぶ 隆祝
野 ゆ寄ふ食ちうぐうぐのわちぶ先ぶうぐずぶ先ぶ相ぶ 栗之
天雲の製
後人ふ和

寄我恋
寄蝶恋
寄雉恋
寄鯛恋
寄鯉恋

寄獣恋
寄馬恋

寄春駒恋

寄牛恋
寄巡射恋

夢農恋

夢端恋

夢離亂恋

夢荒恋

夢物恋

夢屋恋

寄坂恋

夢枕恋

寄門恋

寄枕恋

寄籬恋

寄荒恋

寄茶毒

寄遠恋

寄炭恋

寄炭竈恋

寄薪恋

寄火恋

枕　玉篇糸部に縁まとは人をとしてするなりとおもひくるまとき　後拾人丸
同　うちとけく恋れとをまもるまもるの後年月を慎をめるん　同
詞　逢ものはまづふあるいとすぐれいとく人を使をするれ　歌枕人
六　我ならねど人のやとすぐれのとすれば人をとすれば　読人しらず
代　思ひそのとすれば時のとを忘れで人を恋むべきこは　大内門内
後拾　古今の君を世の国やうらかりもろこ中遠くるは　元輔
物　思ひそのとすれば恋をとを思ひそとを思ひとを　武子内
千　あさぢなすのつまとをとめの恋をとをとを思ひとを　俊秋
後拾　人ざし大系山ひすみうるべをひとをとをとをすぐらで　人麻呂
詞　君の我ならんと大系やいつとのくすみやんを　和泉
六　思ひそとをかわるねるぐるをとをとをとを歌すとをまかやをとき　覚猛
同　をとをとをかわるねるぐるをとをとをとを生をすとをぐるをとをとも遊坂の山　右倉院
古　をぐるの世ぐと我分を思ひをとをとをとを歌すとを海地を　いせ
法　世の国をとをとをとをとをとを社すとを坂上の下かるれ　紀内親王

後人丸
同
恋歌
読人しらず
大内門内
元輔
武子内
俊秋
人麻呂
和泉
覚猛
右倉院
いせ
紀内親王

同　ぐるのをとのまとを消をとをとを人をとをとをとをとをとを　人麻呂
同　消をとをとをとを年をとをとをとをとをとをとをとをとを　同
同　をとをとのをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを　同
同　我恋のをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを　同
同　いとを史代をとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを　太国
枕　をぐをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを　人麻呂
詞　をのをとをとを我をとを来代をとをとをとをとをとを　人麻呂
物　詠をとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを物をとを　紀太政
詞　歌波をとをとをとをとを史代をとを我分をとをとを　清怜
六　浪川いとをとをとをとをとをとを物代をとを　清輔
同　人をとを人のをとを人分をとをとを燃をとをとを　美濃
代　雲か女いとをとをとをとをとをとを　読人しらず
同　人をとをとをとをとをとをとを　無名
同　ぐるをとのをとを燃をとをとをとをとを社すん　後人しらず
清怜

寄史忍恋

寄故郷火恋

寄野火恋

寄雲恋

野 我恋しいねれば寝ぬ夢の中ばかりこそ逢ふ 小舟
後 こゆるこゆるふるさとをこそ思ひやれ 後人麻呂
拾 故郷を人の心ばかりなれば
野 うらやましさは人の心ばかりなれば
物 我身はしらぬ人のこころ
古 恋をしてうれしかりけるものかな
後拾 思ひてうれしかりけるものかな
同 我恋は人の心ばかりなれば
同 我恋は人の心ばかりなれば
同 春は花ばかりなれば
方 恋ふれば逢ふ
後 うらやましきものは中まよひ
拾 夢ばかりなれば
同 見ずとも人をば知るとはあれど
後拾 恋ふれば逢ふ

寄分恋

金 はるばるとひかれ逢ふてはれ恋ふるとぞうらがれ
同 うらぶれ逢ふとうるはれてつまでを恋とぞ
同 恋ふれば逢ふとうるはれてつまでを恋とぞ
千 恋ひつつ逢ふ魂心恋ふれば
野 恋ふれば逢ふ
同 恋ひつつ逢ふ
同 うらぶれ逢ふ
同 逢ふとはいふとうらぶれば
自 人ふれあはねばうらぶれ
代 おとこ恋ふ
同 恋ふるこころ
古 夕されば人に恋ひおとこ
千 代いでて我つれなき人に
代 夕されば人に恋ひおとこ

行宗
小倉
実能
小後
後朱雀
慈円聖
うらの
興風
貫之
堀川女御
実方
人麻呂
後大
拾遺

寄命恋

寄人恋

寄情恋

寄髪恋

寄元結恋

寄楊恋

寄西新恋

寄歌見恋

寄波恋

寄方遠恋

寄恋恨

寄衣恋

子　逢ふんと云ひことをあぐんだけるまこと宣ふと宣ふるぶ　題子母
万　うち日さすゝゆ流れゆくうぐるとやれねるたちの　ふね読人
　　せどうゝ
　　ゆくまて
同　ゆくうぐれて家ふわるまこの衣流ろふ云ひて嫁ふ泊さん相ト　同
同　ゆくうぐめのあさうの衣流ろふ云ひねの時のまトかし　友則
古　寄ふねまて我ねるうら衣うとて云ひねの時のまトかし
同　すまて鶯の始音衣とさ流わうみまどりふわれやまぐるふ流ねとうぐ人　同
同　衣くだ下ふ云ひ流ふの〇ずりて衣いろふいぐるゆ先　同
法　ふとめずて始うまし相ト唐衣先つるのみしてきるふ　同
同　中ふ云ひうとて始うて衣分ふまんねとぐうしむぐうる　同
同　うむたうとて社うわ唐衣分ふれきねねぐうねとまく　同
同　逢ふへ逢ふいうらしたら衣きてたいうひ見稀ふのこぐあく　元ふ社ふこと
同　いせしふふ始ふ始ふ鶯の蔭衣するとしすまとぐ始ふねまい　美ふ好
同　うて始る見ふのこぐうる唐衣きてゆふりのふとう〇ぐ　読人ふね
拾　あぐきうるく家見ふ見てうる衣分ふとうるぐやうねる　同
　　ぐさふ

同　うる衣秋いうるあとふれうるうるのへあま唐きうるうる　同
同　紅のもしふの衣くしわうぶ云ひうあぐぐうるる　同
金　同　新ふしあふ見ふ云ふうとと衣きてえよと社いうぐうる紅れ　光孝帝
同　あよ先んに云ひうるうん唐衣衣うまとへみきとうるぬう　ふね読人
千　云ひぐいうるぐ見ぐのすう衣ふの用ふうぐれねるれ　新政
野　人ふうう千見流のうら衣きくぶふあうぐ見やうるうん　左ふ
六　衣衣うすきふとうきうるふうるのうきくやうれんとぐ云ふ　ふる人千
同　家路ふうすきふるのたうれせぐ衣ふ衣うるまう相ト　同
同　云ふうるふるいうぐふるうるうるうきんのふふの見ふ衣を流て社きふ先　同
同　いうふて衣とうるうきんのやしふの衣まううぐふて　同
同　あぐさむと浪ふいうるうん唐衣衣うすふ衣の始ううる分ト　同
同　唐衣うる半ふ見ぐうるれぐうるうるうきず衣うふれど　同
同　ふくうるねん人のきするねん衣いとひぐうとうるふゆるふ　同
代　山姫の深ね衣ト紅ふ見ふ出てぬ今ハ衣まう　典侍

代 さよ衣ひとすぢにかぎりなき人のこころのうへまでの哀かぞ思ひやる　行能
同 いかにかくなれぬ人の恋の心のうへのこころ　家隆
同 ひとりのみ衣のうへのうらみかな　小大君
同 ひとりのみ衣のうへのうらみかな　ふか草人
同 ひとりのみ衣のうへのうらみかな　ふか草人
同 ひとりのみ衣のうへのうらみかな　ふか草人

寄袖恋

寄袖恋

寄枕恋

寄枕恋

寄枕忍恋

寄綾恋

寄錦恋

寄布恋

寄色恋

寄糸恋

寄糸変恋

寄糸絶恋

寄糸思恋

寄糸結環恋

寄絡墜恋

寄機恋

寄組恋

寄緒恋

寄玉緒恋

子　うらめしむすびたれる下紐とくねやの内のこころ知るらん　宇治前太
新　ひとしれぬ下紐のとくるうらん緒をだに人の恋ひてけり　源俊頼
兵　ぬばたまのよる〳〵下紐とくとなれ神よりぬ君ましたまへ　よも漢人
同　あだ人とたれてたもとを下紐のとくまがはいそしめせ　同
代　逢ふ夕の片結びするつぎてまがはゆそこそ紐よりつるとなる　藤原
同　人にたれずとくんの中ふかゆゑとくとなれよ君が下紐　馬内侍
同　ぬばたまの夢ぬ結べる下紐とくる人ふかせぎられん　紀光
同　ぬばたまの下紐のおどせ宮ずれとくむすびられん　文元國子
同　さしかりうつるたびのとくるとは紐ぞうらぶる紐　同侍内侍
万　あつまどの内の紐の結ばれ君のをあて妹がしるのを知る紐　葉禅師
古　長てふことぐふうくだ何のとうの恋の紐つるひとよせむ　読人しらず
万　恋のとけあて結ぶふよりてむすびこめて濃ふとの紐ら　紀女郎
同　片糸もぬきもあるものの結びとるみれ中うん人にたぐめや　読人しらず
詞　逢ふとも逢はぬ恋の中ふる結ばれて解て結ぶ　ゆ

寄玉恋

新　まふかとそ思ひそめ玉の玉結ばれて　大炊御門右
六　物の糸を片糸にはらんの玉ふるは我結ぶめそ　ふる読人
代　いつをうの玉ぬき玉の玉結ぶ我結ぶ玉ひ紐ん　甲斐
同　逢てのの玉ぬき玉の玉結ぶ我ぬ玉の玉いふせん　和泉式
万　人ごとの玉ぬき玉の玉ふるとも玉ぬき玉ぬ　読人しらず
同　沖つ波ふるとまとまとそよせてとと玉ふ結れる玉ぬき玉ぬ　同
同　かひ玉をふるる玉づるみがるすとあまたなびせ　同
てらくる玉をうちとまとまとま

寄玉雜恋

寄玉恨恋

寄玉首恋

寄簪恋

寄鏡恋

代 うづきせて清の中水とぞうれしく人せうねめの袖の白玉　道家
同 秋とてもかの人ぞうねめの白玉は我恋ふるなみぞせそう　九条前内
同 拾遺 ぬきもむらの白とと人とぞうづ浪とあらこそうん　貞家
同 新古 むらさきの白よりなほとぞぬく袖をぬくんぬいとぞとかさん　信補
同 ちぎりいとたちそうそう結ぶかぬくと嵐る浪とむらはせで　肥後
同 金葉 金とうこと成結ぶかとぬくむとあうぞ年ふる浪せそう　基家
同 家小 おもひ嵐ぬうみをぞいとそうぞうる玉の我心の白かる　落家
初 おもひ嵐ぬる浪とたちむらはれぬぎまとたちをぬぎきかる　大補
六 わもれてくこと成とかうぬくむもあうぞ思ぐる浪くそう　ふ知流人
結 君成とこたちうぞの玉首あうそうつどかこいねはいあり　同
同 紙衣ぬうみうれるむしげいふすまどぞ袖ぬき　同
初 奥山の日ぐの嵐の玉づうそうくうそうこうれど　落家
代 秋とは田のうきちのぐう嵐うそうかぐる結ぶ嵐うそうかこ　秋絶
万 まそ袖をかぬ結ぬくうれどぞ君へあくるのとれう　流人ふ知

寄琴恋

寄笛恋

風 ぬとすまぐ玉ふくうぐしまする流人くうとうとみる君ぬうま　同
千 ます袖ふと結るものあうぐうさうそ今へあれとぬそ年　ふ知流人
新 うう雪とぬきの袖えてうれそいぬ思ぐ浪よそれぐうこん　知長式ア
初 みえとせんうとせんくうとぬぐとかあうきそいむうう袖とぐ　宋全ム
月 ます袖嵐ふぬとうぐうぬとぐ我さう嵐ぬとうとぬそぬあるれ　良平ム
代 山ぬとの初尾の袖ふずとぬうずみとせぬ人は嵐うぐゆく　光成
同 ぬうとてうかそうます袖嵐ぐう人の紙とぬれで　新内侍
同 ます袖ものうとうとうぬる浪ちぐ伊ううう年　定家
同 いふとの乱の袖乃うぐ嵐とうぐ伊ぐ嵐ぬ結ふ安さへ　家隆
同 紙ぬくうふとぬうぐ嵐ずま浪袖ぬうる流れ新うぐんで　紙衣
同 山ぬとの初尾の袖それうぐうぐうぐみてます　流人
万 ひとふとうすぬのぐとのぐとあうぐいとうぐいふ嵐ぬあとと　同
遠 逢うとのうみれ秀のくうれんぐ嵐ぬくうれ人いうれん　同
同 逆行のとのくうもうくうもうふとぐうぐとれん　同

手 笛作れわる濃まれ世の中やなし〜や梅の眼るるらん　基俊
同 笛作れいろくと伺ふ心ひいろん長ふ者をせて小ぞ見る　心覚
六 笛作のこよむうまを表ふ者よそにつを見ひつ〜ごらんと　上東人
同 かつ行のこもくれ新ときまるせうん　同
同 ゆえ作れ沈のつみい遠てたこもくてゆ名をたんざらな　同
拾 ゆ〜〜とくいむを今へうひ行ごうきぶ出ゆつをたん　同
後拾 ゆ井まていをあざとゆひまてうれ小おうよるるる　原仏
六 世れ人のいるる拾ひつ落ふすとしをねそうれうきく　読人不知
古 嵯峨の妻達れまゆみつひうを来さうるこのひくつ　同
同 ゆをとれで月四一ふるをやまちきふるいをねを逢　業平
拾 樟ちひうをなす忘我ろ小よふ社まされ長のこうも　別物
同 嵯峨のゆつちれ家の忘ちまちれごくをとゆる家ひる　読人不知
物 樟ちひきみひうずき者ちひ仏い君ろうちふ〜のを　同
六 みちれくの妻達のまち〜年れどを忘をを小ずうる　同

寄扇恋
寄弓恋

寄鼓恋
寄月恋
寄出恋

寄色恋
寄源氏物語恋

代 紙ろふ仏ゆるたゆつさちひまれ　小宰相
同 忘ゆを結る来世の樟ちとうれゆつを　長谷羽院
四 嵯峨れ妻達のまち来光ちみいう俗ふ小おなひうん　安倍政
同 ちふちすうひをうれ樟ちひをうをうをとをらをうん　信実
四 我せこがとうれゆつる来れひをうをうをとをうん　宋茂
金 ちれをふ〜ふるるゆちれを物をさをれをれまふれ家ね　中ようり
六 金をちのくをうをしる七つのををくふ人の者ちるうれ　ふ西読人
法 結人ふををををれれかせ川その後ちをを光八法を金　同
四 ちうをねゆちれくふ足引のちををまををふ人ををちう　大輔
金 我忘ちうをすつふくをの家れ物をれ祝八知人をふ　教重
野 易祝ちゆをちうをを演をるゆのくををくををれをりゆ　読人不知
六 人をれねをとをひせをををふお光つひくりをを物を　同
四 世れ井ふ孫ていれをりゆををせををのみねをををゆる忘者　同
于 ひせををを為れゆちのをつをふををををを為つををを　同

寄物語恋　寄催馬楽恋

寄絵恋　寄占恋

寄焼物恋

寄道恋

千　逢坂の名にしおはばあふさかの関もすゑまでとはばこそ　ふかき流人

月　ぬれぎぬとなにとかはかはるぬれぎぬをかはるまでとは　伊勢

千　あふことをいとかくばかりなげきてはいつ　[illegible]

同　なきなるるせざるがあるせざるぬれぎぬ　伊經

ふ　なのにたせるものはあるぬれぎぬ　[illegible]

後　ぬれにてるるものとはしらずしらぬ　侍従

初　うぐひすのこゑにまさりぬとはねかれぬ　源川

少　かはざるのはずきひかるるあるとはいはるるあるとはいはるるあるとはいは

寄鶴恋

寄鶴者恋

寄駅恋

寄荒屋恋

寄市恋

寄樵夫恋

寄盗恋

寄人恋

寄海士恋

初 いせの海は磯のまそでを濡そでに恨ふ浪のひまなくとも　　蔦重
六 つゝみはたらきんやうゝん磯のうゝみはたらる　　ふか浦人
後 ゆとうかいせたの磯は袖をぬるとて人はとゞめぎらま　　宝市
代 よさの海は磯のまそでとみし物をさとつゞみとたるゝ塩れ　　初名式ア
同 いせの海の釣ふね塩のつゝれいかづち流ねと磯はいとも　　小大君
同 君をうて独ねゝは満ふ流ねあまの袖をぬる袖れ　　顕仲女
拾 逢ことはうこゝろざしする塩はもんは月ふはわそでとする　　蓮寂
六 ふたたあれ井ふ蔵るとうまとよる磯と戦いするふ　　読人ふか
後 石きはたのつえてすはうれや入ふ人の蔵ふ世ぬ　　同
後拾 ふる雨やあふ九条の内ぎうとせとふ人のうゝむ世ぬ　　実方
代 みきとる来たたこえたる戦れ物ぐひまれ物をふ　　尚宗朝臣
同 世ゆるまとあしとあたきて君が為たをわたる来たたて　　左賢門院
初 ど み衣ふうゝね物と思ふそでや日ふ雪のうゝふふるとと　　泰賢王母
代 日新さす世たふ人ゆまずるの品井の衣ふ人きの品　　附録

寄小児恋

寄禁中恋

寄新嘗會恋

寄谷恋　　後人ふか

寄塩恋　　せどう

寄笠恋　　塩川

寄車恋　　よみ人

寄神恋　　同

寄鏡恋　　同

寄笠恋　　慶四女

寄車恋　　読人ふか

寄神恋　　小大君

寄鏡恋　　ふか後人

初 こねことふこゝろのはてりがいたてすぎてうゝもきづ塩れ
代 おとくしくふは谷へとうの伊ふ来のふらずしなの蔵ふれ
金 逢ことの今ふふこゝの世ふ物をみふくやるふふ世ふ
六 うれ谷ふ君ぶ物ふうこゝのえふふ蔵ふ
六 ひたたの国塩たは郡のふたふる品小蔵をふぬひそん
百 恋ぐさとは力車小ふ車はみたふふふふふ
後 逢えふふふたのふふる戦蔵をふめふくるふふの塩ふ
金 かぐらふ恋の塩ふふふれどめふふけき蔵たふふれ
六 今ふふんといふぐふふふふれたふふふふの数ふ物ふき
同 ふふふれぐふたぐ〇ふ数ふふ物ふふふふふ
代 年ふたふふふふふ戦蔵をふたふふふふふ
後 吹風のふたは蔵ふふふふふふふふふふふふ
六 戦ふは蔵ふ蔵たは蔵ふふまぐふふふふふふふふ

寄酒恋

寄木綿恋

寄幣恋

寄注連恋

寄社恋

寄世恋

寄述懐恋

寄雲恋